

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	渡邊 拓也
職 位	グローバル COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>前年度に引き続き、コアプロジェクト（秋津班）での地域コミュニティ研究を軸に研究を行い、その成果は二つの論考にまとめられた（査読中）。</p> <p>また、後期近代においてハイパーメリトクラシーおよび社会関係資本が重視され、過剰包摂を起こすことによって、さまざまな新しい社会病理を生み出していく様子について、現代型うつ病を題材にワーキングペーパー（下記）を執筆・発表した。加えて、前年度の成果の継承として、名古屋市大曽根商店街のまちづくりに関する追加調査を行い、ネグリ&ハートの視点から新たなセーフティネット型の福祉が形成される可能性について考察し、その研究成果をワーキングペーパー（下記）として発表した。</p> <p>その他、京都大学大学院文学研究科にて博士号（社会学）を授与され、フランスの Ph.D に加えてダブルディグリーを得た。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><論文・ワーキングペーパー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魔法使いの遺産: まちづくりはなぜ失敗するのか/大曽根商店街(名古屋市北区・東区)」、GCOE ワーキングペーパー次世代研究 91『方法としてのジモト——地域社会の不可視化された領域をめぐるフィールドワーク』、京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、次世代研究ユニット「地域社会で不可視化された領域を考察するための<方法としてのジモト>」（研究代表：川端浩平）、2012、118-137 頁。 ・「日本の職場における「現代型うつ病」に関する試論：その社会的要因とポストフォーディズム時代の「社会-人」の条件」、GCOE ワーキングペーパー次世代研究101『「再本質化」される親密圏と新たなシチズンシップ』、京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、次世代研究出版プロジェクト「「身体化」される親密圏・公共圏」（研究代表：水野英莉）、2013a、116-137 頁。 ・「ローカルエリートからローカルセレブへ：ゆるキャラとまちづくりに関する一考察（大曽根商店街、名古屋市北区・東区）」、GCOE ワーキングペーパー次世代研究 102『ジモトという視座：身近な世界を／から批判的に読み解く』、京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、次世代研究出版プロジェクト「地域社会で不可視化された領域を考察するための<方法としてのジモト>」（研究代表：川端浩平）、2013b、29-46 頁。 	